

開催報告

支部事業 子ども実験企画

● 夏休み子供実験教室

『くすり研究所とひみつの実験室』

日 時：2026年8月6日（火）10：30-15：30

会 場：第一三共 株式会社 葛西研究開発センター(東京都 江戸川区 北葛西1-16-13)

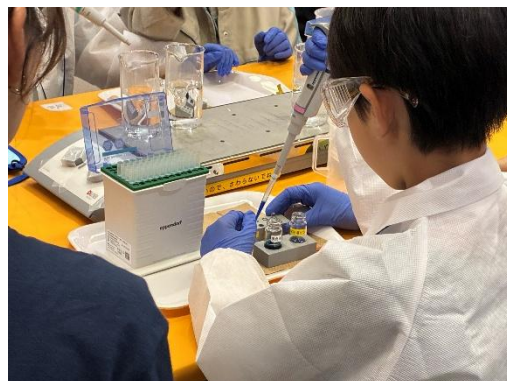
主 催：日本薬学会関東支部

実験協力：第一三共 株式会社

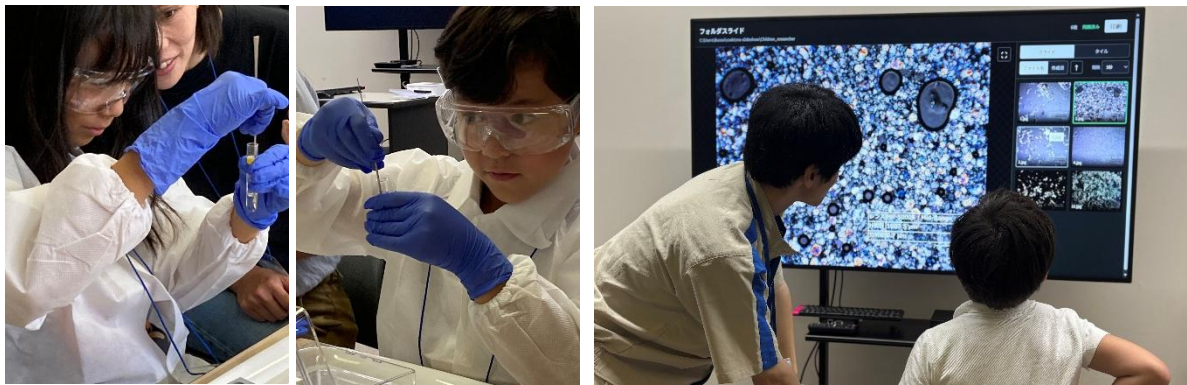
実行委員長：深水 啓朗（明治薬科大学）

2026年8月6日（火）に、日本薬学会関東支部 2026年度 子ども実験企画『くすり研究所とひみつの実験室』を開催しました。今回は第一三共 株式会社 様にご協力をいただき、幾度にも及ぶ入念な打ち合わせを重ねました。当日は多忙なはずの研究員が大勢協力してくださり、子どもたちとともに楽しみながら進めることができました。

最初に関会の挨拶があり、安全に進めるためのオリエンテーションが行われた後、3グループに分かれて、（1）実験A：腸溶性カプセルのひみつ、（2）実験B：結晶の調製と顕微鏡観察、（3）研究所の探検（見学）を体験させていただきました。それぞれのプログラムがスムーズかつ安全に進むよう練られているとともに、スタッフ（生の研究員）の方たちが親切に分かりやすく説明してくださったので、子どもたちは目を輝かせていました。



（1）実験A：腸溶性カプセルのひみつ：左：カプセルを溶かす液のpHを試験紙で測定しました。右：マイクロピペットを用いてカプセルに色付きの試料を充填しました。某ブランドの高級な実験器具を正しく使えるようになった子どもたちは大学生たちを越えたかも？



(2) 実験B：結晶の調製と顕微鏡観察 左・中：謎の試料が飽和している溶液に刺激を与えて結晶を析出させました。右：デジタルマイクロスコップで析出した結晶を観察しました。画像は即座に印刷されて、子どもたちが嬉々としながらノートに貼り付けている様子が印象的でした。



(3) 研究所探検（見学） 普段は決して立ち入ることのできない研究所の内部を探検しました。左：子どもたちの視線の先には最新の機器がズラリと並んでいます。企業秘密ゆえ、お見せできないのが残念です。右：小学校で習うmL（ミリリットル）の1000分の1（ μL ）やさらに1000分の1（nL）の世界を垣間見ました。

お昼休みは実験室から見晴らしの良い最上階に移動して、子どもたちや保護者の皆さんに私たちも混じって昼食をとりつつ、その合間に特殊な製剤や結晶がコレクションされた展示を囲んで会話を弾ませました。



昼食会場での展示：左：この企画の準備過程で試行した様々な結晶（巨大な砂糖や棒の表面に育った結晶など）を見て、自分の家でもやってみようという声が聞こえました。右：インフルエンザ治療薬の投与に用いるネブライザ（吸入器）の開発者からライブで解説いただきました。ちなみに写真の奥には高層からの絶景が広がっています。

午後は引き続き、ローテーションで別のプログラムを体験し、最後に総合討論を行った結果、参加した全員が日本の将来を背負う子ども薬学博士として認定されました。



子ども薬学博士の認定証授与式：皆さん、おめでとうございます！



集合写真：第一三共の皆さま、ありがとうございました！

第一三共株式会社のスタッフの方々、参加してくださいましたお子様と保護者の方々をはじめ、皆様のご協力のおかげで本企画が無事に終了いたしましたことに深く感謝申し上げます。

子ども実験企画実行委員長 深水啓朗（明治薬科大学）